

Sonus faber[®]

HOMAGE
TRADITION



GUARNERI

TRADITION

歴史への敬意と革新への意志を礎に。

弦楽器づくりのマエストロたちへの敬意

いにしへの偉大な弦楽器職人の技に学び、最先端のスピーカー技術をもって、その技を音づくりに活かす。それが、ソナス・ファベールの創立以来続いてきた設計手法。

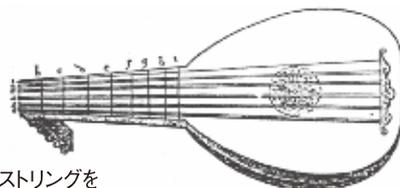
なぜなら、スピーカーの表現力は、まさしく楽器のように、素材や部品、そして形状に依存するからです。1993年、クレモナに生きた弦楽器づくりのマエストロたちに対する敬意は、“ガルネリ・オマーージュ”に実を結びます。

キャビネット断面が後方に向かって狭くなるそのフォルムはリュートをモチーフにしています。それは、ソナス・ファベールが内部共振をチューニングする過程でたどりついた理想的な形状だったのです。



美しきリュート型オマーージュの系譜

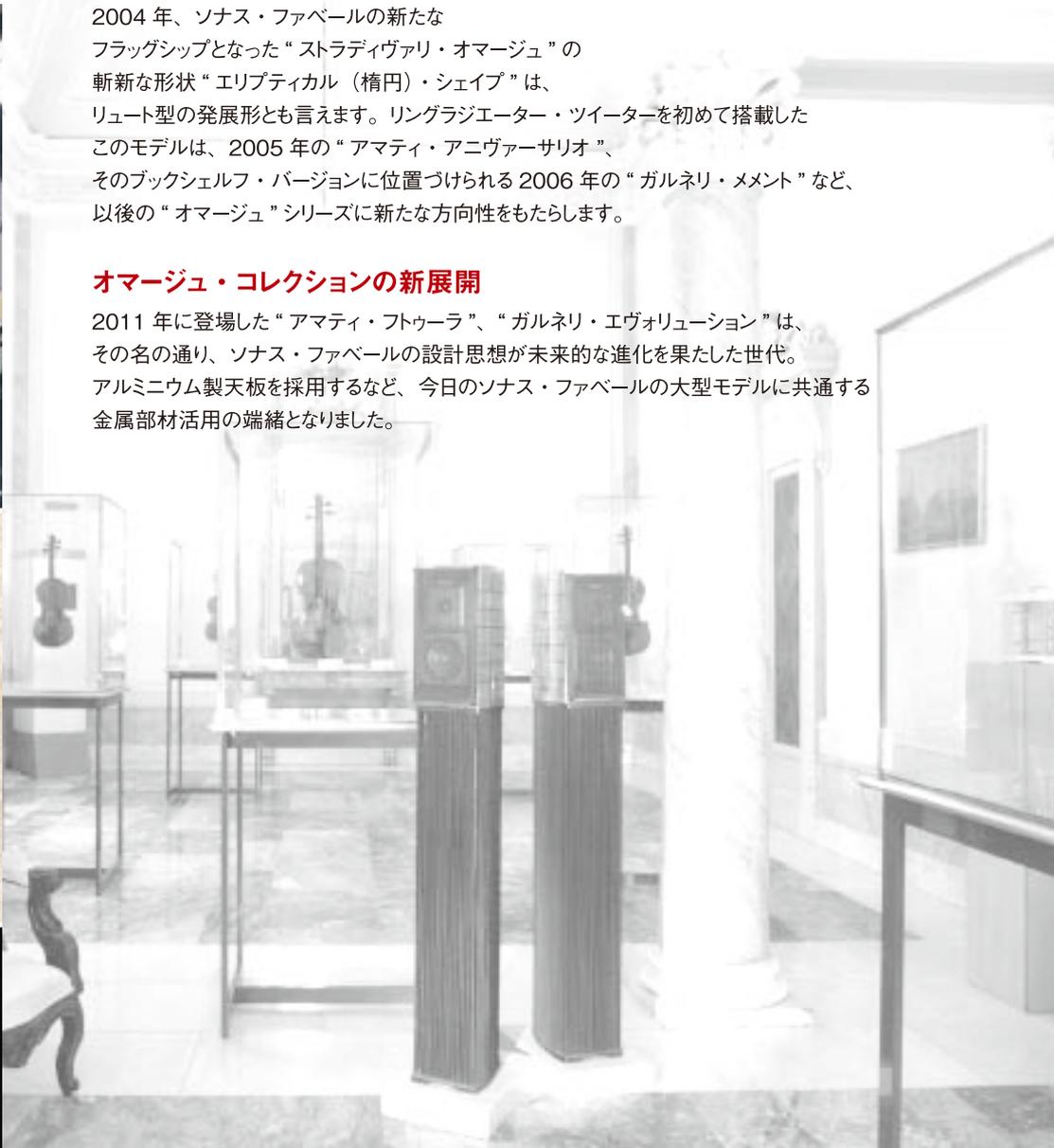
1998年の“アマティ・オマーージュ”もまた、ソナス・ファベールにとって初のフロアスタンディング・システムとなったそのキャビネットにリュート型を採用、“ガルネリ・オマーージュ”同様、弦楽器をイメージさせるストリングを前面に配しました。



2004年、ソナス・ファベールの新たなフラッグシップとなった“ストラディヴァリ・オマーージュ”の斬新な形状“エリプティカル（楕円）・シェイプ”は、リュート型の発展形とも言えます。リングラジエーター・ツイーターを初めて搭載したこのモデルは、2005年の“アマティ・アニヴァーサリー”、そのブックシェルフ・バージョンに位置づけられる2006年の“ガルネリ・メメント”など、以後の“オマーージュ”シリーズに新たな方向性をもたらします。

オマーージュ・コレクションの新展開

2011年に登場した“アマティ・フウーラ”、“ガルネリ・エヴォリューション”は、その名の通り、ソナス・ファベールの設計思想が未来的な進化を果たした世代。アルミニウム製天板を採用するなど、今日のソナス・ファベールの大型モデルに共通する金属部材活用の端緒となりました。



新時代に入ったソナス・ファベールのものづくり

2011年の“オマーージュ”は、前年に誕生したソナス・ファベールの新しいデザイン研究室が
生み出した成果でした。ソナス・ファベールの新たな時代を担う二人のデザイナー、
パオロ・テツゾン（研究開発）、リヴィオ・ククツァ（工業意匠）を中心とするこの研究室から、
リュート型デザインの究極とも言える“アイーダ”、さらに“リリウム”、“オリンピカ”
といった、新世代ソナス・ファベールのコレクションが送り出されています。

この二人の作品は、例えば鳥の翼や海の波、60年代のアメリカ車、さらには航空機や
イタリア映画など、実に様々な事象、文化をインスピレーションの源としており、
スピーカー設計のモチーフとして縦横に活かしています。ソナス・ファベールの原点である
クレモナの弦楽器職人の技、自然や文明が生み出す様々な形、そして20世紀、
21世紀のテクノロジー。ソナス・ファベールの今日のスピーカーは、
それらの融合から生まれているのです。

リュート型デザインの再構築

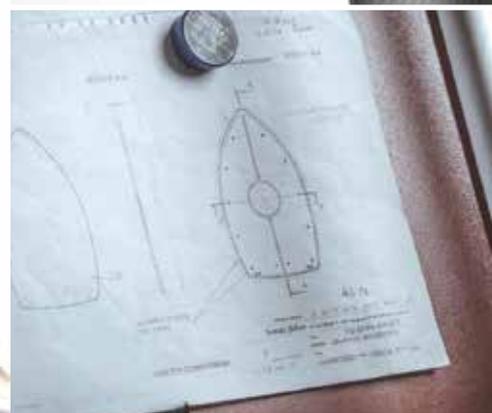
そして二人は今、“ザ・ソナス・ファベール”から“イル・クレモネーゼ”に至る
大型プロジェクトを通じて蓄積された知見を、新たな“オマーージュ”シリーズに
注ぎ込みます。それが“オマーージュ・トラディション”。まさに、今一度古きをたずねて
新しきを知る試みであり、いにしへのマエストロたちの知恵を、あらためて今日に活かす
試みと言うことができるでしょう。



ここでは、“オマーージュ”の原点たるリュート型のフォルムも、近年の大型モデルが
採用した豎琴（ライラ）型フォルムなどと融合した上で、新たなフォルムに再構築されています。
CNC加工したアルミニウムによってキャビネットを上下から挟み込み、共振などの振動要素を排除する
“ダンプシェルフ”天板には、60年代のパワーボートに着想を得たデザインを採用しました。
独自の吸音方式やキャビネット内の空気の流れを最適化する構造によって、低域再現性を強化する
ポート設計“ステルス・リフレックス”も、海の波をモチーフにしたアルミニウム押し出し成型の
リフレックス・ポートを設けた“ステルス・ウルトラフレックス”に進化。
このアルミニウム部材は、ダンプシェルフとともにキャビネット全体の剛性を向上する
“エキソスケルトン”構造の一部としても機能します。

新たなトラディションの創造

優れた音響性能と、その追求が生む、いっさい無駄のない形状。道具としての機能美の
極致とも言える弦楽器を手本に、伝統の技と最新のテクノロジーを合一する
ソナス・ファベールの設計思想。その象徴とも言える“オマーージュ・トラディション（伝統への敬意）”は、
文字通り、これからのソナス・ファベールのトラディションと、そこに美しく
融合されるイノベーションの、揺るぎない礎となるはずです。



GUARNERI

TRADITION

新たな視点で磨き上げられた “ガルネリ・オマーージュ”の新世代。

堂々たる響きを目指して

“オマーージュ”シリーズは、ガルネリ・デル・ジェスに捧げた“ガルネリ・オマーージュ”から始まりました。ガルネリ・デル・ジェスは1696年に生まれ、1744年に没するまでに、師であるアントニオ・ストラディヴァリの影響を受けた美しいヴァイオリンを数々残しました。その仕上げの妙、柔らかく力強い、堂々たる響き。ソナス・ファベールは、まさに名品と呼ぶにふさわしいその品格をいかにしてスピーカーで表現するかをテーマに、木材の使い方からニカワの塗り方に至る名匠の手法を徹底的に研究、初代“ガルネリ・オマーージュ”にその成果を結実させたのでした。

サイズを超える2ウェイ

“ガルネリ・トラディション”は、その後ソナス・

ファベールが重ねてきた研鑽の最新の成果。キャビネットは、“リリウム”などを通じて得られた成果をもとにリスタイリングされ、容積をより大きくとったリユート型。ドライバーユニットはいずれも“イル・クレモナーゼ”直系のカスタムメイドで、高域は28mm口径シルクドーム。頂点をダンピングした独自の“アローポイントDAD”設計としています。中・低域はセルローズ・パルプなどをブレンドした自然素材のダイアフラムをそなえた150mm口径。低域の伸長と低域周波数歪みの低減を目指して進化した、独自の“ステルス・ウルトラフレックス”方式、金属ブロック底板と天板で全体を挟みこむことによってキャビネットの剛性を高める“エキソスケルトン”方式とあいまって、コンパクト2ウェイながら、サイズを超えた自然で力感あふれる低域を実現します。



本体の延長として機能するスタンド

新規に設計されたスタンドは軽量で剛性が高いカーボンファイバーによるモノコック構造とし、わずかに曲線を持たせることで剛性を高めつつ音響特性も最適化。支柱内部に制振素材を充填することで共振を排除、音響的に本体と一体化して濁りのないパフォーマンスをサポートします。さらに、金属でエラストマーを挟んだ“サイレントスパイク”が全体を支えることで、ソナス・ファベールが追求する“Z.V.T.”(ゼロバイブレーション・トランスミッション)を実現。外部振動要因を徹底排除しています。



- スチールとエラストマーで構成される“サイレントスパイク”が床面とのデカップリングを実現。
- カーボンファイバーモノコック構造スタンドと“サイレントスパイク”が連動して不要振動要素を徹底排除。

堅牢にして繊細。 サント・セラフィーノ作品の音世界をモチーフに。

力とデリカシーの融合を目指して

新たな“オマージュ”の開発にあたって、いにしえの楽器職人の歴史をたどりなおす過程で、ソナス・ファベールがあらためて注目したのはサント・セラフィーノ。18世紀前半にヴェネチアで活動し、ニコロ・アマティの工房で腕を磨いたと言われますが、その名は知られていても、未だ謎の多い巨匠です。新たな“オマージュ”では、堅牢にして繊細なセラフィーノのヴァイオリンをモチーフに、パワーとデリカシーを併せ持つフロアスタンディング型システムを用意しました。

それが“セラフィーノ・トラディション”。28mm口径“アローポイントDAD”シルクドーム、ネオジウム磁気回路でドライブされる150mm口径ミッドレンジに180mm口径ウーファー2基を加えたパワフルなドライバーユ

ニット構成により、豊かな音場とゆとりある音楽表現を目指したシステムです。

ウーファーは、シンタクティック・フォーム材をセルロース・パルプ材で挟むサンドウィッチ構造ダイアフラムにより剛性と軽量性を両立。スムーズでダイナミックな追従性によって、音楽の持つ複雑なエネルギーの起伏をリニアリティー高く再現します。

徹底した制振設計

内部定在波やスプリアス振動を排除する上で有効なリユート型。その伝統を基本にしながら、容積や制振性能のさらなる向上などを通じて、より次元の高い音楽表現を手にすることが“オマージュ・トラディション”共通のテーマです。近年の大型システム開発プロセスで進化を続けてきた非振動ベンテッドボックス構造“ステ



ルスリフレックス・システム”を再構築、“ステルス・ウルトラフレックス”に進化させたことも、そうしたテーマの一環。キャビネット内の空気の流れを精密に制御する手法として“オリンピカ”シリーズに採用された“ラミナー・チューニング”をこのシリーズのために最適化しています。

アルミニウム押し出し成型による堅牢なポートはキャビネット背面を貫き、アルミニウム天板と底板でキャビネット全体を挟み込む“エキソスケルトン”構造の一部としても機能。さらに、“ガルネリ・トラディション”同様の“サイレントスパイク”とも連動して、キャビネットの振動要素を徹底排除しています。



- “ガルネリ・トラディション”同様の“サイレントスパイク”と“ダンブシェルフ”の底板が連携。
- 各モデルのレッド仕上げでは、フロントバッフルのレザー、アルミニウムをブラックに処理。



AMATI

TRADITION

力強く、あでやかに。 新たなオマージュ最高峰にふさわしい手応え。

ヴァイオリンの祖への新たな敬意

1998年、“オマージュ”の第二作として開発されたのは“アマティ・オマージュ”。ソナス・ファベールは、初めて手がけたこのフロアスタンディング型システムを、16世紀にクレモナ派を創始したアンドレア・アマティに捧げました。この名匠が、ヴァイオリンづくりの基本的な手法を確立し、のちにニコロ・アマティを中心として隆盛を極める一大ギルドの原型を作ったように、“アマティ・オマージュ”もまた、ソナス・ファベール新時代の出発点となりました。そして、“アマティ・アンヴィアーサリオ”、“アマティ・フトゥーラ”を経て大きな進化を遂げたこのモデルが今、新たな“オマージュ”の頂点としてよみがえります。

28mm口径“アローポイントDAD”シルクドーム、150mm口径ミッドレンジの基本構成に、ここではサンドウィッチ構造ダイアフラム採用の220mm口径ウーファー2基を搭載。壮

大なスケールの音場とダイナミズムあふれる音楽表現を現実のものとしています。

入念な制振技術が生むダイナミズム

“アマティ・オマージュ”の威風堂々たるパフォーマンスと繊細な音楽性は、“アイーダ”や“リリウム”、そして“イル・クレモネーゼ”といった大型システムの開発を通じて獲得されたノウハウとセンスの結実。さらに、本質的に共振の制御に有利なリユート型キャビネットの入念な制振技術も大きく貢献しています。“オマージュ・トラディション”で進化した“ステルス・ウルトラフレックス”は、キャビネット内の空気流を精密に制御して高精度な低域再現を実現するとともに、アルミニウム押し出し成型による堅牢なリアポート構造が、アルミニウム天板・底板によってキャビネット全体を挟み込む“エキソスケルトン”構造の一部としても機能。さらに、“アマティ・トラディション”



では、床面と本体のアイソレーションを徹底するため、スパイク取り付け部にエラストマー樹脂を挟み込む“エラストマー・サスペンション構造”を採用、振動要素の完璧な排除と制御を実現しています。絶対的な静謐の中から立ち上がる、あざやかな音像、一点の濁りもなく透明な楽音に、ソナス・ファベールがたどりついた次元の高さを実感していただけることでしょう。



- “エラストマー・サスペンション構造の”スパイク部分。キャビネット構造と連携して振動要素を排除。
- “セラフィーノ・トラディション”、“アマティ・トラディション”のミッドレンジには、同軸フェーズプラグを採用し、キャビティ共振を低減。

新発想のクロスオーバー回路設計

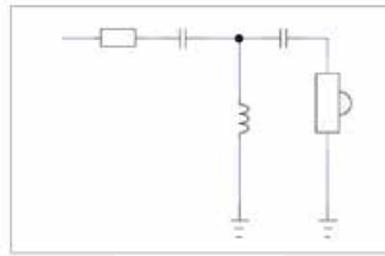
“オマージュ・トラディション”が実現する、高速で透明感にあふれた、音楽性豊かなパフォーマンス。その鍵を握っているのがクロスオーバー回路。“オマージュ・トラディション”では、近年の大型モデルを通じて改良を重ねた“バラクロス・トポロジー”に基づくクロスオーバーを搭載。セミバランス構成としたこの3次ハイパス回路により各ドライバーユニットの位相を最適化することが可能になった結果、キャビネットを傾斜させずに設置できるようになりました。また、回路部品は、モデルごとに



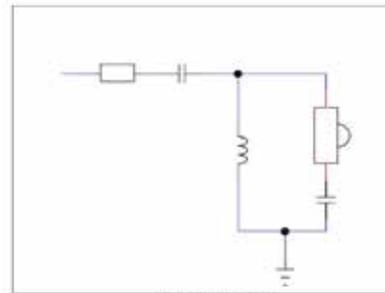
- “アマティ・トラディション”のクロスオーバーネットワーク配置。いずれのモデルも、振動の影響を受けにくい最適の位置に配置しています。
- “アマティ・トラディション”の高域／中域クロスオーバー回路。いずれの回路も厳選パーツを使用、手作業で組み上げられています。
- “ガルネリ・トラディション”のクロスオーバー回路。



試聴を繰り返して厳選されており、ドイツ ムンドルフ社の「EVO」最新世代キャパシター、ジャンセン社製インダクターなど、オーディオ用の最高級品を使用しています。



従来のな3次ハイパスフィルター。



バラクロス3次ハイパスフィルター。



“ガルネリ・トラディション”のクロスオーバーネットワーク配置。



伝統のクラフトマンシップ

イタリア伝統のものづくり技術をふまえながら、あらゆるジャンルにデザインモチーフを求め、素材や音響に関する最新の知見と融合する。それがソナス・ファベールの一貫した姿勢です。木材切り出しや加工・研磨、ニス掛け、革のなめしや裁断・縫製に至る“オマージュ・トラディション”のキャビネット製造とチューニング、ドライバーユニット設計・開発、クロスオーバー・ネットワークの調整・試聴…。そのほとんどは、イタリア・ヴェネト州ヴィチエンツァのソナス・ファベール工房において、入念な手作業で行なわれています。



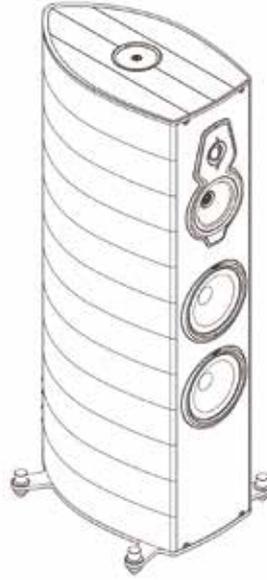
HOMAGE

TRADITION

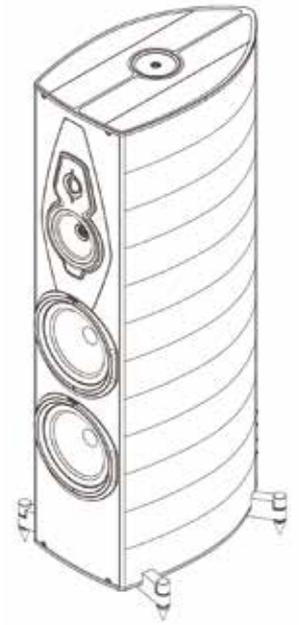
Specifications



GUARNERI
TRADITION



SERAFINO
TRADITION



AMATI
TRADITION

形式	2ウェイ 2スピーカー／ブックシェルフ型 “ステルス・ウルトラフレックス”方式 “サイレント・スパイク”Z.V.T.	3.5ウェイ 4スピーカー／フロアスタンディング型 “ステルス・ウルトラフレックス”方式 “サイレント・スパイク”Z.V.T.	3.5ウェイ 4スピーカー／フロアスタンディング型 “ステルス・ウルトラフレックス”方式 メタル／エラストマー・サスペンション Z.V.T.
使用ドライバーユニット	高域	H28XTR-04 28mm 口径 DAD シルク・ソフトドーム型 (ナチュラルウッド音響迷路リアチェンバー付)	H28XTR-04 28mm 口径 DAD シルク・ソフトドーム型 (ナチュラルウッド音響迷路リアチェンバー付)
	中域	-	M15XTR-04 150mm 口径コーン型 (ネオジム磁気回路)
	低域	(中／低域) W15XTR-04 150mm 口径コーン型 (ネオジム磁気回路)	W18XTR-08 180mm 口径コーン型 ×2 (シンタクティックフォーム／セルロースバルブ・ サンドウィッチ構造ダイアフラム)
クロスオーバー周波数	2.5kHz	80Hz / 250Hz / 2.5kHz	80Hz / 250Hz / 2.5kHz
周波数特性	40Hz-35,000Hz (ステルス・ウルトラフレックス含む)	30Hz-35,000Hz (ステルス・ウルトラフレックス含む)	28Hz-35,000Hz (ステルス・ウルトラフレックス含む)
出力音圧レベル	87dB	90dB	90dB
公称インピーダンス	4Ω	4Ω	4Ω
推奨アンプ出力	30~250W (クリッピングなし)	80~350W (クリッピングなし)	100~500W (クリッピングなし)
最大入力電圧	20Vrms	22Vrms	25Vrms
スピーカー端子	バイワイヤリング対応端子 (HIGH/LOW)	バイワイヤリング対応端子 (HIGH/LOW)	バイワイヤリング対応端子 (HIGH/LOW)
外形寸法 (幅×高さ×奥行)	239×377×400mm (本体) *突起部含む 300×758×390mm (専用スタンド) 300×1,135×400mm (スタンド取り付け時)	396×1,091×510mm	411×1,170×540mm
重量 (1本)	16kg (スタンド取り付け時 30kg)	52kg	61kg

*DAD：ダンプ・アベックス・ドーム

*Z.V.T.：ゼロバイプレーション・トランスミッション

キャビネット仕上げ

Wenge (グロス・フィニッシュ)：

“オマージュ・トラディション”で新たに採用されたアフリカ産広葉樹ウエンゲ材によるフィニッシュで、メイプル材インレイを施しています。天板アルミニウム・フレーム、リアの“ステルス・ウルトラフレックス”ポート部はガンメタル仕上げ。フロントバッフルをカバーするレザーはコーヒープラウンの仕様となっています。

Red (グロス・フィニッシュ)：

ソナス・ファベール伝統のウォルナット材レッド・フィニッシュと、ブラックレザーのコンビネーション。天板アルミニウム・フレーム、リアの“ステルス・ウルトラフレックス”ポート部アルミニウムもブラック仕上げとしました。

聴力の音を世界から

NOAH 株式会社 **IP**

〒112-0013 東京都文京区音羽 1-1-7 正進社ホールディングスビル 4 階 03-6902-0941
www.noahcorporation.com